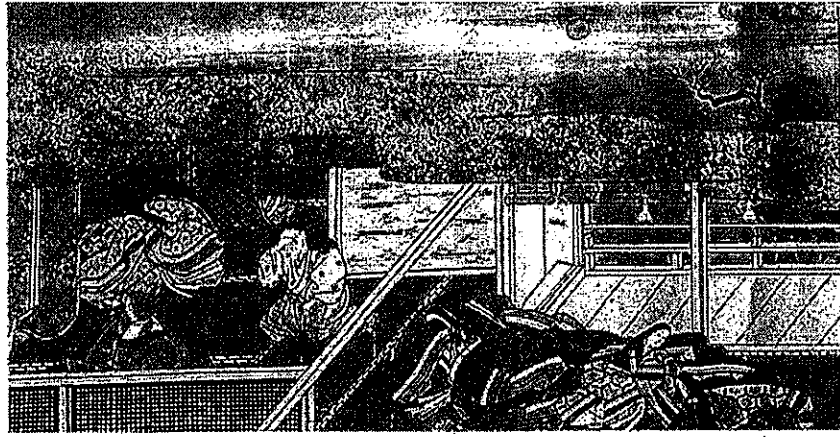


富山中部高等学校

オープンハイスクール

【国語】の授業へようこそ

R1年7月31日（水）



月を見て泣くかぐや姫（『竹取物語絵巻』）

氏名

R 1 富山中部高等学校オープンハイスクール 【国語】



読めたかな？

この後、月の都から迎えが来ます。嘆いていた時とは対照的にツーンとして、かぐや姫は帰って行ってしまいます。
有名なシーンですから、興味を持ったなら、続きを古文で読みましょう。
中学校でやっているように、音読を繰り返し、古文の言い回しになれ、お話の内容を楽しむのは大切なことです。高校では、それに加えて、文法事項をもとに自力で古典の世界を読解する技術を学びます。どうか楽しみにして高校への扉をひらいてください。待っています。

『竹取物語』

かぐや姫の嘆き

八月十五日はかりの月に仕出でて、かぐや姫 いといたく泣きたまふ。
八月十五日くらの月の夜に(縁側)に出て座って、かぐや姫はとてみひくお泣きたなる。
人目も今は つつみたまはす泣きたまふ。
今はもう人目もはばかりなさらず泣きたなる。

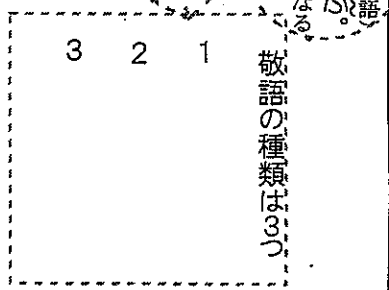
これを見て、親ごもも「何事ぞ。」と問ひをわへ
これを見て、親(ある翁)たちも「どうしたのか」と言ひて騒ぐ。

かぐや姫泣く泣く言ひ、「先々も申さむと思ひしかども
かぐや姫が泣く泣く言ひ、「前々から申し上げようと思つたけれども
必ず心惑はしたまはすものぞ」と思ひて、
きつと心をお乱しなさるだらうと思つて、
さのみやは(う)ち出では(へ)りぬる(ぞ)。
そんなことはつかりをしていられないと思つて、打ち明けてしまふのですよ。

おのが身はこの国の人にもあらず。月の都の人なり。
それを、昔の契りありけるに、この世界にはまうで来たりける。
今は帰るべきに、この月の十五日に、

かのもとの国より、迎へに入らまうで来む。
「避らず」(謙譲語)「強意」(義務)「原因理由」
さうさ、まかりぬべければ、
おほし嘆かむが悲しきことを、
この春より思ひ嘆きはべるなり。」と言ひて、いみじく泣くを、翁、

「こは、なでふ」このたまふぞ。
竹の中より見つけこえたりしか。
菜種の大きさはせしを、
わが丈立ち並びまで
養ひたてまつりたるわが子を、何人か迎へきこえむ。
まさに許さむや。」と言ひて、「我こそ死なめ。」とて、
泣きのこゝろに、いと堪へがたげなり。



作品のジャンル

作品 成立した時代

時代前期

★語句の意味

八月…古文では「はづき」と読みます。
月の異名を紹介しましょう。

Q. 今日は何と読む? 「7/28」

Q. 「八月十五日」の「月」ってどんな月?

冬	秋	夏	春
10月	7月	4月	1月
神無月	文月	卯月	睦月
11月	8月	5月	2月
霜月	葉月	皐月	如月
12月	9月	6月	3月
師走	長月	水無月	弥生

つつむ…イ【包む】全体を覆い囲む。くるむ。
ロ【慎む】気兼ねする。遠慮する。

Q. どちらがいいでしょう?

さのみやは…「さのみやはあらむ」の略。
「そんなにばかりでいられようかいや、いられない」という意味。

Q. これはどういうことでしょう?

契り…前世からの約束ということ。

《前世→現世→世》

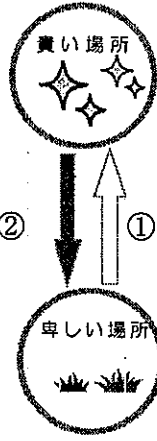
昔の人は、前世であったことが原因で、現世に結果が出ることを考えていたんだね。そして現世のことが原因で、「これを」因果)「と言います。

「この世界」
もとの国…

Q. それぞれどちらでしょう?

イ「月の世界」/ロ「人間の世界」

*「まうで来」「まうじ」「来」と「まかる」
①「まうじ」は謙譲語で「参上する」の意味
②「まかる」は謙譲語で「退出する」の意味



「この世界」と「もとの国」に対する
かぐや姫の意識が読み取れますね!

★月の世界へ帰らねばならぬかぐや姫が、最も
心にかけていることは何でしょう?

なでふ…「な」といふ(何と言ふ)「」の変化した語。